



協之沢漁港に設置した大型水槽を進めるスジアオノリの試験養殖。10月から生産に乗り出す

アオノリ養殖施設起工

陸前高田 10月生産開始、増設も

食品製造業の理研食品（宮城県多賀城市、渡辺博信社長）は19日、陸前高田

10月に生産を開始し、増設も計画する。

約20人が出席し、神事で工事の安全を祈願した。渡辺社長（66）がくわ入れし「市の復興の一助となるよう頑張りたい」と抱負を述べた。

改正金融
・経営統へ
・機関経強
・地域盤金
・資金交テ
・システの3分
・銀行の出資活
・地域に再
・企業に掛
・事業や
・改正金
・融商品
・行定

新
関に交不
法律。此
機能の維
国に提出
機構から
付金を受
余行状況
資金の返

たし規模でもある
新型コロナウイルス禍
で、地銀は各地の企業の資
金繰り支援で重要な役割を
果たす。
なと具体的な単略が問わ
る」と指摘。合併後、いか
にサービスを高められるか
が重要との見方を示した。

住田で鉱区開発竣工 太平洋セメント

太平洋セメント（東京）は19日、住田町の斐下山（587㍎）を進める次期鉱区開発工事の竣工式を現地で行った。採掘した石灰石は大船渡市赤崎町の大船渡工場に運び、セメント原料となる。

同社の不死原文社長、神田謙一住田町長、戸田公明大船渡市長、工事関係者ら約40人が出席。不死原文社長は「今後も環境に配慮し、地域に安心してもらえるよう操業していく」とあいさ



採掘した石灰石を運ぶ坑道を見学する出席者

た。漁港内の敷地約5千平方㍎に大型水槽（直径8㍎、高さ0・8㍎）を25基設置し、乾燥加工のための鉄骨平屋の管理棟（床面積324平方㍎）も整備する。2023年度には水槽25基を増設する計画で、総事業費は約2億7千万円。当面は地元雇用6人を含む8人態勢。11月ごろに出荷を開始し、初年度の年間生産量は乾燥品5トを見込む。水槽増設後は年10トの生産を目指す。

した。同社は現在、大船渡市日頃市町と住田町世田米の鉱区で石灰石などの採掘を行っており、資源確保のため斐下山の開発を計画。2016年から世田米までの坑道掘削や破碎設備の建設を進め、今年3月に完成した。石灰石採掘は5年後をめぐりに同山でのみ行う。100年にわたり、年間約240万トの採掘が可能という。採掘した石灰石は、坑内ベルトコンベヤーや岩手開発鉄道の鉄道を利用して大船渡工場に運ばれる。

リユース容器商品導入

イオン、首都圏19店で

イオンは19日、日用品や食品メーカー6社と組み、リユース（再使用）容器による商品販売を25日から始めると発表した。回収して洗浄した容器に、ガムや消臭剤を詰め直して売る。大手スーパーが多くメーカーと協力し、資源循環の仕組みを構築して大規模にリユースを進めるのは国内に類例のない取り組みとなる。

首都圏の東京、神奈川、千葉の3都県の計19店舗から始め、廃棄物削減に取り組む。8月までに関東地方の50店舗に広がる方針



イオンが販売するリユース容器入りの商品

に容器代が返金されるため、安定的な回収が見込めるという。

第1弾はP&Gジャパンの洗剤やアース製菓の洗剤など19日

格安スマホ番号割り

